

北部病院だより 第101・102合併号

Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】 インフルエンザの治療と予防

【巻頭言】 当院のDMAT紹介

【医師の配属・異動】 【診療統計】

【TOPICS】 ボイラ-祭を行いました。

【TOPICS】 都筑区民祭りに参加しました。

【TOPICS】 ロビ-コンサートを実施しました。

【患者さんからのご意見・ご要望】

【TOPICS】 クリスマスツリー点灯式を開催しました。



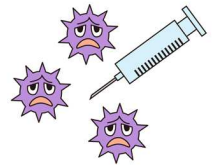
回転扉の中にも
ご注目ください！！



巻頭言①

『インフルエンザの治療と予防』

紅葉も終わり、朝晩の寒さが厳しくなると“インフルエンザ”という単語をよく耳にするようになります。インフルエンザは流行性感冒とも言われ、人のかかわりは古く、紀元前 412 年のヒポクラテスとリバイの書や、日本では源氏物語にも記載があります。1933 年にヒトのインフルエンザウイルスが発見され、その後病原性を変化させながら流行を繰り返しています。



インフルエンザへの感染

インフルエンザは、通常 11 月下旬から 12 月上旬頃に発生し 1-3 月頃にピークを迎えますが、ときに夏期にも流行します。

その感染経路は患者が咳などで出したウイルスが目や鼻、口から入る経路（飛沫感染）、飛沫を吸い込む経路（空気感染）、ウイルスが付着した物などを介する経路（接触感染）があり、ウイルスが 1 個侵入しても感染は成立します。侵入したウイルスは主に上気道の粘膜に付着し、約 20 分で細胞の中に入り込んでその後増殖し、短い潜伏期間（1-3 日）を経て発熱などの症状を発現します。

治療方法

治療は抗インフルエンザ薬がありますが、ウイルスの増殖を抑えることにより効果が発現するため早期治療が必要です。しかし、抗インフルエンザ薬は健康な成人を対象にすると従来の季節性インフルエンザでは有熱期間を短縮するが、合併症、重症化は予防できないとされます。一般的に多くは自然軽快する疾患であり、抗インフルエンザ薬の投与は必須ではないとされています。但し、新型インフルエンザ(H1N1) pdm09 では重症化予防効果が示されていますが、

また「抗インフルエンザ薬は獲得免疫系を抑制して、翌シーズンの再感染率を高める。」という報告があります。抗インフルエンザ薬を使用すると発熱期間は短くできますが、翌年以降の再感染の可能性を高める可能性があるのかもしれません。まだ様々な議論をすべきところがありそうです。

小児では解熱剤にも注意が必要です。「熱が高ければ解熱剤」と考えますがインフルエンザ脳症の悪化因子として、ジクロフェナクナトリウムと、メフェナム酸の関与が疑われているため、解熱剤はアセトアミノフェン、イブプロフェンを投与するのが一般的です。

予防方法

インフルエンザの治療については様々な意見があり、やはり『かからないための予防』が大切です。予防にはマスクや手袋の着用、手洗いなどが有効です。前述した通り接触後 20 分で細胞内にウイルスは侵入してしまうため、うがいによる予防効果は期待できません。そしてワクチンです。その効果の評価は様々ですが、「感染予防の効果は期待できないが、発症や重症化を抑える効果はある。」というのが一般的です。また免疫力の低下は感染しやすい状態を作るため、十分な栄養や睡眠休息をとることも大事です。冬の味覚でいっぱい栄養をとって厳しい季節をのりきりましょう。



巻頭言②

『当院のDMAT紹介』



当院には『災害医療派遣チーム DMAT (Disaster Medical Assistance Team) 』があります。

《メンバー紹介》

左から外科 中野講師、救急センター 神尾准教授、畠山看護師係長、
狩野看護師、峯村薬局長、薬局 縄田講師

《DMATについて》

日本で組織されるきっかけになったのが、1995 年の阪神淡路大震災でした。日本の大都市を襲った未曾有の震災では、6,000 人以上の死者が出ました。この際、被災した地域では、たくさんの患者さんを医療機関が受け入れることになりましたが、医療機関も甚大な被害を受けてしまいました。そして、多くの医療者も被災者となり、多くの命を救いたくても出来ないという現実と直面しました。平時の救急医療が提供されれば助かった命が 500 名存在した可能性が後に報告され、「一人でも多くの命を助けよう！」という理念に基づき平成 17 年に発足し、現在、日本全国に約 1 万人の DMAT 隊員が養成されるまでになりました。近年では、平成 23 年に発生した東日本大震災、平成 27 年の鬼怒川堤防決壊、平成 28 年の熊本地震などに日本全国の DMAT が現地に派遣され、医療救護や被災地の病院支援などを行いました。

DMAT は、単独で活動するのではなく、多くの機関と連携して活動します。警察や消防、自衛隊、行政機関などと連携して、迅速かつ的確な行動が求められます。そこで、日頃から、これらの関係機関と合同での訓練を行っています。

《当院の DMAT》

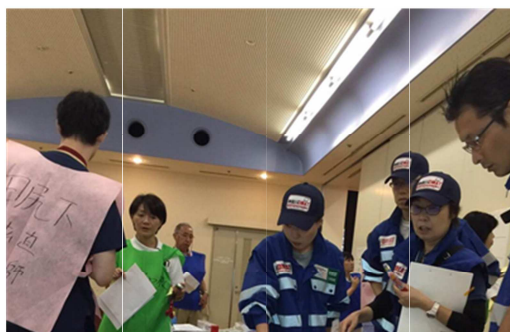
先日行われた「かながわビックレスキュー 2016」に当院の DMAT が参加しました。

地震で被災した病院にたくさんの怪我をした方が来院するとともに、病院自体が倒壊する恐れがあるので入院患者さんを安全な場所に避難・誘導するという想定でした。熊本地震でも総合病院や複数の病院で病院避難が実際に行われ、多くの DMAT が支援にあたりました。私たちは、日常からこのような訓練に参加して、万が一の時に迅速に対応できるように備えています。これには、DMAT 隊員のみならず、活動を支える多くの病院スタッフの協力が必要であり、まさに**病院一丸**となって、「**一人でも多くの命を助ける**」ための取り組みを行っています。

当院の DMAT 隊員を紹介します。リーダーは、救急センターの医師で呼吸器外科を専門としています。また、もう一名の医師は、外科の医師で、外傷などに幅広く対応します。看護師 2 名は、救急センターで勤務する救急のスペシャリストです。

業務調整員は、2 名とも薬剤師です。

1 名の薬剤師は、日本臨床救急医学会の救急認定薬剤師の資格を有します。模擬患者さんのトリアージを行っているところです。災害時には、たくさんの患者さんに迅速かつ適切な医療を提供するために、短時間で患者さんの病状を把握する必要があります。



医師の配属・異動

新規配属医師

2016 年 10～11 月

【新規採用】

・ 前田 康晴 (消化器センター) 東京内視鏡クリニックより

【附属施設より】

・ 小川 祐 (泌尿器科) 大学病院 泌尿器科より
・ 北野 学 (耳鼻咽喉科) 大学病院 耳鼻咽喉科より
・ 松倉 聡 (呼吸器センター) 藤が丘病院 呼吸器内科より
・ 山本 将平 (こどもセンター) 藤が丘病院 小児科より
・ 石井 源 (呼吸器センター) 藤が丘病院 呼吸器内科より
・ 布山 正貴 (こどもセンター) 藤が丘病院 小児科より
・ 豊福 康介 (放射線科) 江東豊洲病院 放射線診断科より
・ 奥山 亜由美 (産婦人科) 大学病院 産婦人科より
・ 岡本 怜士 (救急センター) 大学病院 整形外科より
・ 小川 浩史 (メンタルケアセンター) 藤が丘病院 精神神経科より
・ 鈴木 洋久 (メンタルケアセンター) 烏山病院 精神神経科より
・ 三輪 裕介 (内科) 大学病院 リウマチ・膠原病内科より
・ 八木 由里子 (産婦人科) 大学病院 産婦人科より
・ 飯塚 一樹 (脳神経外科) 大学病院 脳神経外科より
・ 久保 美奈子 (脳神経外科) 藤が丘病院 脳神経外科より

異動医師

2016 年 10～11 月

【学外研修へ】

・ 佐藤 雄太 (消化器センター) ・ 鈴木 謙一 (消化器センター)
・ 小川 正隆 (消化器センター) ・ 加賀 浩之 (消化器センター)
・ 松本 祐樹 (泌尿器科)

【配置転換】

・ 武田 健一 (消化器センター⇒救急センター) ・ 大宮 俊啓 (救急センター⇒消化器センター)

【附属施設へ】

- ・ 渡部 良雄 (呼吸器センター ⇒ 藤が丘病院 呼吸器内科)
- ・ 真田 健史 (メンタルケアセンター ⇒ 烏山病院 精神神経科)
- ・ 黒田 春菜子 (放射線科 ⇒ 大学病院 放射線科)
- ・ 東山 祐介 (救急センター ⇒ 江東豊洲病院 整形外科)
- ・ 堀内 健太郎 (メンタルケアセンター ⇒ 藤が丘病院 精神神経科)
- ・ 清水 拓未 (メンタルケアセンター ⇒ 東病院 精神神経科)
- ・ 高橋 茜里 (メンタルケアセンター ⇒ 東病院 精神神経科)
- ・ 滝口 修平 (耳鼻咽喉科 ⇒ 藤が丘病院 耳鼻咽喉科)
- ・ 後藤 未奈子 (産婦人科 ⇒ 大学病院 産婦人科)
- ・ 遠武 孝祐 (産婦人科 ⇒ 江東豊洲病院 産科)
- ・ 入江 亮 (脳神経外科 ⇒ 大学病院 脳神経外科)
- ・ 河合 延啓 (こどもセンター ⇒ 藤が丘病院 小児科)

診療統計

前年同月比 ()内は1日平均

診療実日数 2015年9月(入院:30日・外来:23日)、2016年9月(入院:30日・外来:24日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2015年9月	17,316人(577.2人)	26,456人(1,150.3人)	328件(10.6件)	589件(31.0件)
2016年9月	19,109人(637.0人)	27,700人(1,154.2人)	425件(14.2件)	717件(35.9件)

前年同月比 ()内は1日平均

診療実日数 2015年10月(入院:31日・外来:26日)、2016年10月(入院:31日・外来:25日)

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2015年10月	17,614人(568.2人)	28,435人(1,093.7人)	369件(11.9件)	626件(29.8件)
2016年10月	19,149人(617.7人)	27,760人(1,110.4人)	397件(12.8件)	706件(35.3件)

TOPICS

ボイラー祭を行いました。



平成28年11月14日(月)にボイラー祭を行い院内の無事故・安全運転を祈願しました。

我が国では、古くから11月8日を「ボイラーデー」と定め、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにすることが行なわれてきました。

当日は院長・副院長はじめ教職員その他関係者総勢40名が参列し、安全で快適な病院運営を目指す理念を再確認する機会となりました。

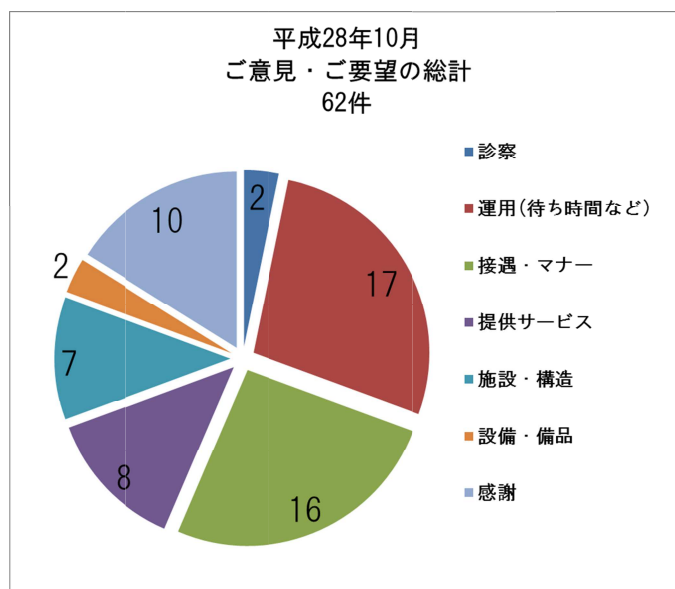
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<運用について> 1階、2階外来で来ておりますが、一般の方と病院関係者が同じトイレを使用して違和感を覚える。 他計 6 件	不愉快な思いをさせてしまい申し訳ございません。 警備や防犯上の観点から、職員も患者さんと同じお手洗いを使用させていただいております。ご理解とご協力をお願いいたします。
<運用について> どの科も待ち時間が長くて疲れます。もっとスムーズでスピーディーな対応をお願いします。 他計 17 件	初診の方でも、紹介状があれば事前予約が可能となっています。 予約であれば少しでもおまたせする時間が短くなるかと思えます。再診の場合は診察前検査等がなければ予約時間の来院も可能です。体調がすぐれないときには受付に声をかけていただければ、横になってお待ちいただけるように致します。
<接遇・マナーについて> 病室にて毎日何度も携帯電話で話している人がいて、看護師も気付いているのにもかかわらずなぜ注意しないのでしょうか。本来使用禁止のはずです。 他計 16 件	部屋で電話をしている方には、携帯電話使用可能な場所をご案内をし、同室者に迷惑にならないようにしていきます。病棟スタッフに周知するとともに、入院時オリエンテーションでも明確にお伝えするように致します。
<感謝について> 夕方、会計窓口でうっかり母の形見の財布を落としてしまった。翌朝に問い合わせると、病院に勤務する方に発見され、管理課に大切に保管されていることがわかった。業務中はもとよりその前後にも細やかな気配りをしていただき、心より感謝を表します。	



TOPICS

都筑区民まつりに参加しました。

11月3日（木・祝）に開催されました「第22回都筑区民まつり」に参加し、ブースを出展致しました。平成21年の第15回から毎年参加しており、当院からは今年4ブースを設け医師・看護師をはじめ総勢約40名の職員が出席しました。

虫歯リスクテストでは、お子さんが検査結果を友達に自慢していたり、乳がん検診啓発のコーナーでは参加者が医師や看護師の話に真剣に耳を傾けていたりしている光景が見られました。当日は晴天に恵まれたこともあり、親子連れや年配の方など老若男女たくさんの方に当院のブースにお越しいただき、ありがとうございました。

来年もより一層充実した内容で参加する予定ですので、多くの方のお越しをお待ちしております。



赤ちゃん抱っこの疑似体験
お子さんも興味津々です。

検診モデルを使った自己検診体験



ロビーコンサートを実施しました。

平成28年10月25日（月）はソボレフ智子さん、平成28年11月25日（金）は島田愛梨さん・島田梨音さん姉妹によるピアノコンサートをお送りしました。

ソボレフさんはご友人の紹介で、当院の透明ピアノで弾きたいと申し込んでくださいました。島田さん姉妹は昨年に引き続き、2回目のご出演でした。皆さんステキな音色を奏でてください、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

ソボレフ智子さん
来年3月25日（金）
にも演奏いただきます



島田愛梨さん、梨音さん姉妹



TOPICS

クリスマスツリー一点灯式を開催しました。

平成 28 年 12 月 1 日（木）15 時より、中央棟 1 階のホスピタルストリートにてクリスマスツリーの点灯式が行われました。

門倉副院長のあいさつに続き、病院職員笠原係員（管理課）のピアノ演奏による「ジングルベル」と「We wish you a merry Christmas」をお届けしました。世良田病院長にクリスマスツリーの点灯をしていただき、煌びやかにライトアップされました。



このツリーの設置から飾り付けを担当してくださっているのは、当院の中央監視室の皆さんです。

いつも照明の交換から空調の点検、機器の設置等、施設・設備に関することを一手に担ってくださる“病院の縁の下の力持ち”です。クリスマスツリーの他に正面玄関のイルミネーションも飾ってくださっており、その中のトナカイは手作りになります。

今年のクリスマスツリーのポイントは、ホスピタルストリートの真ん中から見るとグリーンに縁どられて見えることです♪

点灯されたクリスマスツリーをバックに写真を撮られている方や、「とてもステキなツリーに癒されました。」と感想を伝えて下さった方もいました。皆さんの思い出の一つにさせていただけたら、大変嬉しく思います。

お越しいただきました皆様を始め、今回の点灯式に向けてご協力くださいました関係者の方々、ご尽力いただきありがとうございました。

編集後記

今年も残すところ 1 か月を切りました。皆様はどのような一年をお過ごしになられたでしょうか。

私は、月日の経過が早くあっという間でした。しかし、これでは良いも悪いもなく今後への発展につながらないですよ。小さいながらも目標をもって、達成できたかどうかを振り返ることがリハビリテーションでも大事だと言われています。そのため、来年の目標を立てようと考えています。手帳やカレンダーも買い替えのシーズンですので、考えた目標を書き出してみるのも良さそうですね。皆さんもご参考までに。

広報委員 作業療法士 嘉部 匡朗

北部病院だより 第 101・102 合併号
平成 28 年 12 月 1 日発行
発行責任者 世良田 和幸 (昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者 緒方 浩顕 (広報委員会 委員長)
発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』をご覧ください。

